

経済産業委員会 専門員

やまだ ひろし  
山田 宏

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故は、単に原子力防災のみならず我が国の危機管理やエネルギー政策の在り方にも多くの課題を突きつけている。これらに関して論ずべき点が多いが、ここでは原発事故の危険性に関する誤解や風評被害の一因ともなっている広報や報道における数値の扱いについて考えてみる。

報道等に接して一般の人々(素人)がまず理解できなかったのは、シーベルトやベクレルという単位で表される量の意味であり、それと人体への影響との関係であった。また、「検出値は国の基準値を上回っているが、食べても直ちに健康に影響はない。しかし、念のため食べるのを控えてほしい。」というような一見矛盾する発表であった。そして、こうした疑問が生じた原因として、専門家は当然の前提としている基本的な事項を、素人は知らないのだということ認識した上での報道等がなされなかったことがあるように思われる。

例えば、次のような事項は、報道等を理解する上での前提となるべきものであり、上手に説明すれば、素人にも理解可能と考えられる。①端的に言えば、放射性物質の量の単位がベクレル(Bq)であり(放射能の量という説明が多いが、素人には分かりにくい)、放射性物質が放出する放射線の人体への影響量(被曝量)の単位がシーベルト(Sv)である。②放射線量の測定値として発表されるのは、ある時点での値であり、単位は1時間当たりシーベルト(Sv/h)となるが、人体への影響については、被曝を受けた時間を乗じた累積値(単位はSv)を見なければならない。③放射性物質の量や被曝量の基準値は、放射線障害が発生する危険な水準を示すのではなく、安全係数を考慮した余裕のある値である。特に、放射線作業従事者でない一般公衆の被曝量や飲食物に含まれる放射性物質の量の基準については、低い放射線量を比較的長期にわたって浴びた場合の発ガン性や遺伝的影響についての確実な知見がまだないので、できる限り低い値が設定されている。

残念ながら、特に事故当初は、政府等による記者発表においても、報道番組等に出演した学者等からも、こうした基本的な事項についての分かりやすい解説はほとんど聞かれなかった。専門家は、素人がなぜ理解できないかを理解できず、したがって素人に分かるように説明することができないようである。また、素人も専門的なことについては初めから分からないものと決め込み、分かろうという努力をしない傾向にあるようである。その後、新聞、雑誌や関係機関のホームページ等には、これらの解説が掲載されるようにはなったが、国民の多くが読んだかは疑問である。原発事故に関して政府や事業者の有する情報を包み隠さず公開すべきことが強調されているが、情報を理解するための情報も併せて広く提供されなければ、素人には誤解や混乱が生じるだけである。震災発生直後、民放テレビではACジャパン(旧公共広告機構)のスポット・コマーシャルが苦情が出るほど流されたが、こうした機会の活用を含め、上記のような基本的な事項について解説する責任が政府や報道機関にはあるのではないのか。